

幼児教育支援プログラム案 県民パブリックコメント 意見の概要

1 プログラム全般

No.	意見の概要
1	<p>&lt;プログラムの策定&gt;</p> <p>今回一つの大きな形が出来たことは、子供達に携わっている者にとってとてもうれしく、また親の支援に関わっている立場からも心強いものがあります。</p>
2	<p>&lt;プログラムの周知&gt;</p> <p>プログラムが保育所、幼稚園や小学校、また家庭に広く周知できるように努めていただきたい。</p>
3	<p>&lt;他施策との連携&gt;</p> <p>県の子育て支援や発達障害に対する取組みの中で、今回のプログラムの課題達成に活用できる事業、取り組みがあるので、他課との横の連携、市町との連携を図ってほしい。また、今まである資源をより有効に活用して、幼児教育支援プログラムが動くように計画してほしい。</p> <p>近年、障害の分野ではなく、保育、幼児教育、家庭教育の管轄の事業から、発達障害についての講演の依頼が増えております。幼児教育の分野でも発達障害への関心が高まっており、園での生活をする中で困り感のあるお子さんがたくさんいらっしゃるようです。</p> <p>子育てマイスターの研修、子育てサポーターの研修、公民館の主事さんの研修、家庭教育推進の研修、テレビやラジオへの出演等から講演依頼がありますが、それぞれが別々の事業として実施されています。すべて、幼児の教育に関することと思いますので、幼児教育支援センター内にそれぞれの事業の連携がなされるような仕組みがあるとよいと思います。</p>
4	<p>&lt;幼児教育の体制&gt;</p> <p>県の幼児教育支援プログラムで行われる施策が障害をもったお子さんも利用、活用できる体制を整えてください。(例 親子自然体験学習を推進されるなら、その体験学習に障害を持った幼児も参加できるような配慮をお願いします。)</p>

2 保育所と幼稚園の連携を強める (第2章)

No.	意見の概要
5	<p>&lt;幼保連携①&gt;</p> <p>乳幼児を抱えている親御さんにとって、保育園・幼稚園の問題はとても大きな問題でどちらに行かせると良いのか頭の痛い問題となっています。</p> <p>幼保一本の研修をするようになり、連携が取りやすい環境になっていければ、保護者の選択も違っていくと思います。</p>
6	<p>&lt;幼保連携②&gt;</p> <p>小浜市には、公立幼稚園は一園しかなく、あとは保育園です。幼稚園に対する地域の認知度は低く、来年度から幼保連携型の認定こども園になることで、様々な教育上の悩みや不安があります。</p> <p>各年齢の研究会でも幼稚園と保育園職員がともに学んでいますが、若い職員が互いに(幼稚園と保育</p>

No.	意見の概要
	園の保育内容や方法について)を理解し合うまでには至っていないと思われます。今後、県内で増えていくであろう認定こども園での教育・保育がしっかりと行われるためにも、地域で交流の差がないように幼保でのつながりの必要性を感じています。
7	<p><b>&lt;幼児教育研修&gt;</b></p> <p>どの研修にしても嶺北中心で実施されているため、小浜から出掛けることはなかなか大変です。せっかく支援プログラムが出来上がり、保育士、幼稚園教諭の資質向上を目指すことが計画の中にあるので、嶺南地域(敦賀市から西の者)が少しでも研修に行きやすいように、敦賀市での開催も視野に入れて研修を計画していただけるとありがたいです。せっかく研修に参加したい気持ちがあっても、住んでいる場所で受講しやすい、しにくいの差があるのは不公平に思います。</p>
8	<p><b>&lt;園庭遊び①&gt;</b></p> <p>私たち現場では、親子でお料理作りをする・お散歩に行く・近くの公園に行つて遊ぶなど、身近な所で親子が触れ合つて遊ぶことの大切さを伝えていきたいと思っています。まだ、具体的な遊び方(草花遊び・言葉遊び・伝承遊び等)を園で行うふれあい学級などで取り上げて知らせていかなければいけないと思っています。このような時に専門家の先生が講師で指導してくさだるとありがたいです。</p>
9	<p><b>&lt;園庭遊び②&gt;</b></p> <p>当園では、遊びのコーディネーターの例として挙げられています福井県サッカー協会の方々に依頼してサッカー教室を行っています。専門家の方に指導を受けることで、子どもたちは楽しくサッカーをするだけでなく、ルールについても学ぶことができます。外部の専門家の方から指導を受けることで、よい刺激となっているのは、子ども達だけでなく私たちも同じです。</p> <p>その他の競技でも指導して下さる機関がありましたら、紹介していただけると嬉しいです。いろいろなスポーツを年齢に合わせた遊び方で楽しむことで、体を動かすことの心地良さをどの子にも味わせたいと思います。</p>
10	<p><b>&lt;発達障害に関する研修&gt;</b></p> <p>一般の幼児教育の場で発達障害についての研修の要望が高いと感じております。</p> <p>こども療育センターでは、「ふくいっこ、「みんなちがってみんないい』応援プロジェクト」の一つとして、保育士研修(予算外、一般保育園対象)、保育士研修のテキストの作成(予算 2 年間)を行いました。発達障害についての研修については、ノウハウはあるものの、今年度は予算、人員の関係で実施できておりません。</p> <p>もしも、幼児教育支援プログラムの中に「気になる子への関り方」の研修が組み込まれるのであれば、こども療育センターのノウハウを活かしていただけたらと思います。</p>

### 3 保育所・幼稚園と小学校をつなげる（第3章）

No.	意見の概要
11	<p>&lt;保幼小連携①&gt; 『第3章 保育所・幼稚園と小学校をつなげる』</p> <p>施策⑨「スタート・アプローチプログラム」を県内全体で各園、各小学校が連携して作成し、その内容として、「5歳児ができるようになった教室掃除を1年生でも継続する」、「5歳児に正しい鉛筆・クレヨンを持ち方を教える」などを盛り込もうとしていることは、幼児の発達・成長に大きな役割を果たすと思います。</p>
12	<p>&lt;保幼小連携②&gt;</p> <p>保育所・幼稚園と小学校が「小1終りまで」を共通目標にするというのは、保育所・幼稚園が小学校の予備校化につながらないか。</p>

### 4 家庭の幼児教育力を高める（第4章）

No.	意見の概要
13	<p>&lt;家庭教育向上①&gt;</p> <p>優しい中に厳しさがあって、温室育ちより厳寒を耐えられる力を育てる家庭環境が望ましい。また、一歳から三歳までの子の脳が一番発達盛んな時期なので、この間英才教育を施して多岐なる開発するのもいい。見たり、聞いたり、触ったりすることを絶えずしていれば幼児教育の成果が期待できる。</p>
14	<p>&lt;家庭教育向上②&gt;</p> <p>施策⑩「親力アドバンスコース事業(一日保育体験)」は、親や祖父母等の家族が子育て・教育に対する理解を深め、園との良好な関係をつくりながら子どもを健やかに成長させることにつながると思います。</p>
15	<p>&lt;祖父母支援①&gt;</p> <p>今の祖父母の年代は、子育てに対して関わっている人が昔(曾祖父母の時代)より少なく、育児書の世代の人も少なくないと思います。</p> <p>孫への支援に対しては、親支援同様に関わり方等伝える事が必要に感じています。</p>
16	<p>&lt;祖父母支援②&gt;</p> <p>施策⑬「孫育てガイダンス」は、祖父母の関わりが高いという福井県の子育て環境の特質をより質の高いものにする事につながると思います。</p>
17	<p>&lt;特別支援教育①&gt;</p> <p>発達障害を含む「気になる子」に対する記述が見当たりません。</p> <p>幼稚園には特別支援教育も定着しているはずですが。</p> <p>福井県ではアセスメントもスタートしています。是非詳しく記述してください。</p> <p>また幼稚園(教育)と放課後等デイサービス(福祉)の二重に支える仕組みは、今後就学期への前例となります。</p> <p>全体の課題に入らないとおかしいと思います。また発達障害等を別枠の計画にすることは絶対やめてください。インクルーシブ教育が叫ばれている中で、特別教育支援が外されてはなりません。</p>
18	<p>&lt;特別支援教育②&gt;</p> <p>発達障害や気がかりな状態をもつ子への対応に早期から取り組むことは、一人ひとりの子が個性を發揮し</p>

No.	意見の概要
	ながら成長するために欠かせないことですから、その面の施策がこのプログラムに具体的に盛り込まれることを検討していただくことを願っています。
19	<p>&lt;その他&gt;</p> <p>娘を育てるにあたって、モンテッソーリの教育理論をベースに幼児期を育てています。</p> <p>18年教育。その実証実験を娘で行った訳ですが、正直言って、本当にこんなことで賢い子が育つのか半信半疑でした。しかし、モンテッソーリが主張するように15歳で生きる力を持った賢い子が芽を出すというのは現実となります。</p> <p>今の福井県の教育の最大の問題点は、15歳以降で伸び悩むことです。</p> <p>最初は良くて、最後の直線になったときに一気に他県の生徒にぶち抜かれます。これは、自らが学ぶという自主性が育っておらず、他の人に指示されて勉強をしているからです。また、バランスが非常に悪く、一点豪華主義なので、そのことは国立大学などの受験で大変不利になります。</p> <p>幼児期に体で覚えさせないといけないことがたくさんあり、幼児が行う仕草が何を勉強しているのかの意味を大人が知っていて見守らないといけません。ただ汚いとか迷惑だとそういう視点で幼児を見てしまっただけは、その子の将来の芽を潰してしまいます。幼児期に行ってこなければならぬ「宿題」を一杯やり残して成長しているのです。</p> <p>親は、子供の才能を伸ばすこともありますが、逆に潰していることが最近よく見かけます。</p> <p>子供の集中力や意欲と言った、最も学ぶ上で重要なメンタルの部分の育児が不足しているのです。</p> <p>読み書き「そろばん」の基礎的な読解力、計算力、集中力がことごとく不足しているので、中学の間までは誤魔化せても高校では崩れます。だから、福井県の学生が大学入試で、石川県や富山県の学生に惨敗するのです。</p> <p>はっきり申し上げて今のままの幼児教育を続けていけば、やがて福井県の豊かな文化や風俗は崩れます。いくらでも講演でも文章でも出します。とにかく、今の間違った子育ての方向性を変えるお手伝いができれば幸いかと存じます。</p>

## 5 豊かな感性を伸ばす遊び・体験を促す

No.	意見の概要
20	<p>&lt;地域のつながり&gt;</p> <p>地域のつながりでは、登下校を見守って下さっている地域の見守り隊の方にしっかりあいさつをするよう声をかけています。地域の行事参加は、親が参加していない家庭の子どもは参加しないので、気軽にみんなが参加できるように考えていく必要があると思います。</p>
21	<p>&lt;加古里子絵本&gt;</p> <p>図書館に加古里子さんコーナーを設置し、福井県出身であることを広くアピールすることで、ますます興味をもつ人が増えると思います。当園の絵本の部屋の中にも、コーナーを設けたいと思っています。</p>